

## 「真に恐るべき方」

2015年08月25日

ルカによる福音書 12章4節～7節。「友人であるあなたがたに言うておく。体を殺しても、その後、それ以上何もできない者どもを恐れてはならない。だれを恐れるべきか、教えよう。それは、殺した後で、地獄に投げ込む権威を持っている方だ。そうだ。言うておくが、この方を恐れなさい。五羽の雀がニアサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、神がお忘れになるようなことはない。それどころか、あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」

主イエスは弟子たちに「友人であるあなたがたに言うておく」と語りかけている。ヨハネ福音書 15章13節～15節に「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである」と書かれている。弟子たちを友人と呼び、親しく語っているが、その内容は深刻である。「体を殺しても、その後、それ以上何もできない者どもを恐れてはならない。だれを恐れるべきか、教えよう。それは、殺した後で、地獄に投げ込む権威を持っている方だ。」この言葉は主イエスに従うことによって、体が殺されることがあることを前提にして語られている。主イエスへの信従において、体が殺されることもあるが、殺すだけで、それ以上のことができない者たちを恐れてはならない。殺した後、地獄に投げ込む権威を持っている方、この方を恐れなさい。

主イエスは「五羽の雀がニアサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、神がお忘れになるようなことはない。それどころか、あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている」と続けている。5羽の雀は8分1デナリオン（1デナリオンは1日の生活費）で売られている。その1羽さえ、神はご存知である。神はあなた方の髪の毛の1本、1本まで知っておられる全能の神である。あなた方は雀より勝っている。神はあなた方を決してお忘れになることはない。この方のみを恐れよと諭している。

使徒言行録7章に、キリスト教界の最初の殉教者はステファノであったと書いている。彼はユダヤ人の魂の故郷であったエルサレム神殿を冒瀆したとして、民衆の怒りを買って、石打ちの刑で殺された。その時彼は、人の子イエスが神の右に立っているのを見、最後に「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で祈って、眠りについたと伝えられている。

人は時間と空間の制約の中で生きている。これを超えることはできない。主イエスの「地獄に投げ込む権威を持っている方」という言葉は人間が受けている制約を超えた「永遠」を指しているのではないか。永遠は無限の時間ではなく、超越（究極）である。全てを超越した全能の神が厳然とおられる。ステファノはこの神を仰ぎ見たのではないか。永遠と結び合って生きることが信仰である。この信仰は地上の全てを相対的なことと認識し、恐れから解放される。そして、超越（究極）に結び合っている者は究極以前の地上の事柄に誠実に、責任的に関わって生きることを示されるのである。